ともに生きる　ともに創る

共生共創通信 VOL.20

ともに生きる ともに創る
共生共創事業

ことごとん
個性、
舞台
ぞくぞく。

撮影：鈴木竜一朗

表現する喜びと可能性を分かち合う

障がいのあるダンサーが集結する「ラポールダンスコンテスト」

練習室の扉を開けてそっと中に入ると、和やかに会話をしながらストレッチをしている人たちの背中が見えました。練習をしていたのは「Dance@しんよこ」。障がいの有無に関わらず、ダンスが好きなメンバーが集まり、先生の指導のもと、月に3回ほど練習しています。音楽がかかると、さきほどの穏やかな様子から一転。身体をいっぱいに使って躍動します。ジャンプが得意なメンバーは思い切り跳ね、細かいステップが得意なメンバーはすらすらと足を動かし、それぞれの持ち味を活かして踊ります。

同じ頃、別の会場では「美奈和会」のメンバーが練習をしていました。次回の発表に向け、衣裳を身に着けて立ち位置を確認しています。マイケル・ジャクソンの「スリラー」に合わせてポーズを決め、スムーズにフォーメーションを移動しながら、息を合わせて踊ります。「もう一回！」と繰り返し音楽をかけて練習する姿からは、表現する楽しさが伝わってきました。

「Dance@しんよこ」と「美奈和会」は、どちらも横浜を拠点に活動するダンスチームです。「ラポールダンスコンテスト」には初開催の2023年から3年連続で出場しています。

2025年度神奈川県 共生共創事業 今後の公演情報

神奈川県では、年齢や障がいなどにかかわらず、すべての人が舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。

https://kyosei-kyoso.jp

チャレンジ・オブ・ザ・シルバー　シニアのための体験型ダンスイベント

撮影：加藤甫

本格的な照明・音響が施された「舞台」という特別な空間の中で、椅子や箱馬など劇場にあるものを使ってダンス表現に挑戦！最後には短いパフォーマンスをショーイングで発表します。みる身体・みられる身体の双方を味わってみませんか。

日時：2026年1月30日（金）・31日（土）
会場：KAAT神奈川芸術劇場〈大スタジオ〉
参加費：各日3,500円
定員：各日50名（先着順/事前申込み）
講師：安藤洋子
詳細：https://kyosei-kyoso.jp/events/cots2025/
※お申込み方法等、最新情報は共生共創事業Webサイトをご確認ください

精神障害を考える演劇ワークショップ・プロジェクト　『IKIZAMAミュージックでぃなーしょー』

県内の精神科病院で入院患者の方と交流した時間をもとに、精神疾患を抱える人たちの声や表現を発信している「OUTBACKプロジェクト」メンバーたちが創作したパフォーマンスを発表します。今年のテーマは「食事」。それぞれの食事の記憶から人生を味わうひと時にぜひご参加ください。

撮影：橋本貴雄

日時：2026年3月1日（日）15:00開演
会場：Art Center NEW　料金：入場無料
プロジェクトメンバー：多田淳之介、西井夕紀子、OUTBACKプロジェクト、県立精神医療センター・紫雲会横浜病院・武田病院ワークショップ参加者のみなさん
予約開始日：2026年1月16日（金）
お問合せ：045-222-0553

【自主公演】横須賀シニア劇団「よっしゃ !!」　第11回公演『賢治とトシの銀河鉄道』

宮沢賢治の実話とフィクションといくつかの童話を織り込んだオリジナル作品。コロナ禍で劇場公演ができずに、涙を飲んだ作品のリベンジです。宮沢賢治ワールドと劇団「よっしゃ !!」ワールドを乗せた、「銀河鉄道」の旅をどうぞお楽しみください。

日時：2026年3月7日（土）13:30開演
　　8日（日）13:30開演
会場：ヨコスカ・ベイサイド・ポケット
料金：一般2,000円、高校生以下1,000円
　　（当日券+500 円）
作・演出：横田和弘
出演：横須賀シニア劇団「よっしゃ !!」メンバー
予約開始日：2025年12月6日（土）
お問合せ：080-9882-0832

お問合せ

公益財団法人神奈川芸術文化財団 社会連携ポータル課　〒231-0023 横浜市中区山下町3-1 神奈川県民ホール内
（2026年2月より移転）　〒231-0023 横浜市中区山下町252 グランベル横浜ビル8階
電話 045-222-0553（平日 10:00～17:00／年末年始を除く）　メール kyoso@kanagawa-af.org
FAX 045-663-3714（2026年2月よりFAX番号変更） 045-641-3184

主催 神奈川県　企画製作 公益財団法人神奈川芸術文化財団　発行 2025年12月　編集・ライター 橋本誠、福井尚子　デザイン 水澤充（MYG round inc.）

神奈川県　神奈川文化プログラム MAGCUL マグカル　ともに生きる社会 かながわ憲章 KANAGAWA CHARTER for an Inclusive Society　ME-BYO®　公益財団法人 神奈川芸術文化財団

共生共創通信

表現する喜びと可能性を分かち合う

挑戦することが世界を広げる

「ラポールダンスコンテスト」は、横浜市港北区にある「障害者スポーツ文化センター横浜ラポール（以下、ラポール）」が主催するコンテストです。2025年6月に開催された第3回には横浜や川崎などを活動拠点とする15チームが参加し、12名がソロ部門に出演。576名が観覧し、障がいのある人のダンス大会として全国でも大きな規模になっています。

かねてよりラポールでは、障がいのある人の文化活動の発表の場を設け、ラポールを練習拠点とするダンスチームも多数参加していました。熱心な活動の様子を受け、ラポールの文化事業課長と担当者が、参加団体が互いに刺激を受ける場としてコンテストの可能性を感じ、開催へと踏み切りました。

出場は、チームに障がいのある人が所属していることが条件。楽曲を持ち込んで2人以上で参加するチーム部門と、当日渡された1分間の音源に合わせて1人で踊るソロ部門があります。

すべての発表が終わった後、チーム部門とソロ部門からそれぞれグランプリが選ばれ、その他審査員特別賞が送られます。毎年審査は激戦。結果発表はとても盛り上がるとラポールの担当者は話します。「ドラムロールが鳴ると会場のテンションが上がって、受賞して泣く方、悔しがって泣く方、どちらもいます」。

出演団体にとってはどのような場になっているのでしょう。「ステージで子どもたちがお互いをフォローし合ったり、舞台に立つ楽しさに目覚めたりと、成長を見ることができています」と話すのは、「Dance@しんよこ」の保護者代表・鈴木由紀子さん。2025年のダンスコンテストでは、それぞれが好きに色を選んだお揃いのTシャツを身に着け、自分らしく踊りました。発表に向けて特別に作品づくりはせず、普段練習している曲の中から何曲か組み合わせて披露しているそう。それは練習回数や体調の波に関わらず、発表の機会に参加してほしいと思っているから。「とにかく楽しんで、自分を出せればいいのではないかと思っています」と鈴木さんは子どもたちを温かく見つめます。

一方で、ダウン症のある20～50代までの10名が活動するダンスチーム「美奈和会」のメンバーは、コンテストで優勝を目指すことがモチベーションにつながっています。「障がいのある人の発表に順位が付くのはどうだろうという思いもあったのですが、メンバーたちが『賞を取りたい』と願う姿を見て、見方が変わりました」と話すのは、代表の猪野俊子さん。活動歴は30年以上で、チームワークの良さが特徴の「美奈和会」ですが、積極的に外部で発表するようになったのは、ここ数年。2023年のダンスコンテストでグランプリに選ばれたことが大きな自信につながりました。メンバーの保護者の方々も「賞をもらえることがとても嬉しい、という気持ちが子どもにあることを発見できてよかった」「悔しい、もっと練習しようという気持ちも生まれている。挑戦することで世界が広がっていくと感じます」と微笑みます。

すでに、来年度の開催も決まっているダンスコンテスト。「現在、来場者の中心は参加者とその家族や友達ですが、より多様な方に観に来てもらえたらと考えています」と担当者は話します。「また、ダンスを始めたばかりの方にも気軽に参加していただいて、人前に立つことや、褒められて自信を得ることなど、何かきっかけになったら嬉しいです」。

踊る楽しさ、認められる嬉しさ、あと一歩届かない悔しさ。様々な気持ちを味わう「ラポールダンスコンテスト」は、表現する喜びと可能性を分かち合う場として、挑戦する人々の世界を広げています。

各チームへの活動取材記事はこちら※2026年1月公開予定
https://kyosei-kyoso.jp/journal/report-20

美奈和会（撮影：葛谷舞子）

猪野俊子さん（撮影：鈴木竜一朗）

鈴木由紀子さん（撮影：鈴木竜一朗）

Dance@しんよこ（撮影：葛谷舞子）

障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール
横浜市港北区鳥山町1752
https://yrf.jp/rapport
ラポールイベント案内：
https://yrf.jp/rapport/event

神奈川県あそび歌プロジェクト『世界のうたとあそぼう!』in DE&Iフェスティバル

レポート

横浜市で開催されたイベントの模様をレポートします。

2025年10月5日（日）に横浜市都筑区のノースポート・モールで開催されたDE&Iフェスティバルに、振付家のホナガヨウコさんが率いる神奈川県あそび歌プロジェクトが参加しました。

まずは2階のステージでの公演。音楽が始まると、ショッピングモールに買い物に来ていた乳幼児から高齢の方まで、年齢層も国籍もさまざまな人たちが次々と集まり、いつの間にか客席は満員に。クイズの出題者が何を見ているのか、ヒントを聞きながら当てるラテンアメリカのあそび歌「ベオベオ」では、客席も一緒に考えながら、スイカや浮き輪などの絵が描かれたパネルから正解を当てます。手あそびとジャンケンがひとつになった韓国・朝鮮のあそび歌「トッケビナラ」では、演者と客席がジャンケンをして盛り上がりました。最後は、オウムになりきってまねっこあそびをするラテンアメリカのあそび歌「ペリキト」。お客さんも演者の動きをマネしながら音楽に合わせて身体を動かしていました。

続いて、同建物内の「つづきMYプラザ」でワークショップを実施。小学生、乳幼児とその保護者などが参加し、ペアで向き合って行う日本の手あそび歌「もちつき」や、参加者全員が輪になって歌に合わせて隣の人の手を順に叩いていく手あそび、ラテンアメリカの「ロンマカロンティンテロ」などを体験しました。はじめて出会ったみなさんが一体となって楽しみ、会場内にはたくさんの笑い声が起こっていました。

これまで劇場でのコンサートのほか、幼稚園や学童でのワークショップなどを行ってきたあそび歌プロジェクトですが、不特定多数の人が出入りする場所であそび歌を行うのは今回がはじめて。振付家のホナガヨウコさんは「劇場とは異なり、ステージも客席も明るくてよく見える。演者も客席も最初は気恥ずかしさがありながらも、それを忘れるぐらい気楽に参加していただけたと思います。そもそもあそび歌は生活の中で気軽にやるもの。今回のイベントに参加した方々が、なんだか面白そうだなと、あそび歌に興味を持つきっかけになっていたら嬉しいですね」と話しました。これからもさまざまな場所へ出かけて行きたいと話すあそび歌プロジェクトのメンバーたち。あなたの町にも、いつかあそび歌がやってくるかもしれません。

神奈川県あそび歌プロジェクトとは

日本で暮らす子どもたちが誰でも楽しめるように世界の「あそび歌」の歌詞や振付をアレンジして、多文化の魅力を発信するプロジェクト。これまで集めてきた世界各地のあそび歌を紹介するデジタル冊子と動画を、2025年10月に公開した。

「みんなのスマイル・コンサート」が開催されました

会場の様子

2025年11月20日（木）に厚木市文化会館で、神奈川フィルハーモニー管弦楽団による演奏会が開催されました。手拍子や歌などで参加できる楽曲もあり、参加された特別支援学校の児童・生徒もリズムに乗って楽しみました。終演後、湘南支援学校の生徒は「BELIEVEは知っている歌で一緒に歌うことができた」「スマホで音楽を聴くのが好きだけれど、やっぱり生の音楽は迫力が違う」と目を輝かせました。楽団の担当者・澤木さんは「演奏者も自発的に手拍子に参加。子どもたちも演奏者も一緒に体験することが共生社会への一歩になるのでは」と話します。また、「子どもたちだけでなく先生たちにも、ゆとりと癒しの時間になっていたら嬉しいです」とも。会場一体となって、音を楽しむ時間になりました。